

令和7年度第2回 青梅市工業振興対策審議会 会議録

日時 令和7年9月26日（金）午後3時開始

場所 青梅市役所4階 403会議室

出席者

委員（敬称略）

林 英夫、岩田 雅行、池田 政教、井戸 功誠、渋谷 貴子、
片桐 正博、鎌倉 夏来

事務局

渡部地域経済部長、並木商工業振興課長

加納工業振興係長、森田商業労政係長

株式会社価値総合研究所 鴨志田事業開発部長、木村研究員

欠席者

委員（敬称略）

久保 安宏、吉澤 清志

傍聴者 なし

次第

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 青梅市企業誘致条例の改正について

(2) 次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の実施について

4 報告事項

次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる青梅市の現状分析について

5 その他

6 閉会

発言要旨

3 協議事項

(1) 青梅市企業誘致条例の改正について

事務局 商・工業振興プランの策定作業の過程で収集する様々な情報を活かしながら、青梅市企業誘致条例の改正案についてじっくりと協議したいと考えている。

委員 異議なし

(2) 次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の実施について

事務局 (内容説明)

委員 アンケートの回収率を上げるために考えていることはあるか。

事務局 ウェブ回答を取り入れることや、商工会議所から事業者へのアプローチ、市のSNSやホームページ等での広報など、工夫していきたい。

また、設問が多いと回答が大変になると思うが、経年変化をみるために前回調査の設問に加えて、時代の変化に合わせた設問を追加したかたちとしている。ボリュームは多いが、今回は、たたき台として提示した。

委員 市の施策についてあまり知らない回答者もいると思うため、施策の認知度を聞いてはどうか。

委員 商店街向けアンケートについては、外国人対応や、キャッシュレス対応についても聞いてみてはどうか。

委員 今後活かすべき魅力や特徴の設問と、今後注力すべき分野の設問は、一つにしてもよいのではないか。

委員 課題の選択肢のなかに、産業用地が不足しているという課題もあるとよいのではないか。

委員 回答者の視点に立つと、普段あまり考えていないことや、関心のないことについて聞かれても、答えづらく、またこれに答えるとどうなるのか疑問を感じてしまう。「市としてはこういうまちにしたいが、一緒に考えてほしい」という聞き方がよいのではないか。

事務局 アンケートも含めた基礎調査は、10年後の未来を考えるためにまず現状を把握する、というスタート地点という位置づけで

もある。

委員 小売業では、敷地面積は聞かないのか。

事務局 敷地面積の設問も含めて、特に、前回調査を踏襲している設問については、聞く必要があるかあらためて精査する。

また、例えば、製造業事業者アンケートでは、立地先を検討した近隣自治体を聞く設問があるが、都内の近隣市町村、近隣県、それより遠方などの区分にして、さらにその理由を聞くかたちもよいと思う。

委員 回答する事業者の視点に立つと、回答に協力した場合の展望が見えたり、回答を通じて市への要望を書けると思えると、回答に協力する気になると思う。

委員 「その他」としてひとまとめにされるのを嫌がる人もいるだろうから、「その他」の選択肢には、併せて、その内容を書けるようにしてはどうか。

委員 選択肢だけでなく、生の意見を書けるとよい。

委員 市外へ移転した事業所に理由を聞くことはできないのか。

事務局 いま市内にある事業所に対して、「今後も青梅市で操業を続けたいか」という聞き方もあると思う。さらに、続けたいと思わない事業所には、その理由を聞いてもよいと思う。

委員 市内のアンケートだけではなく、他の市区町村の、例えば商店街に対して、成功の要因等を聞ける機会があると今後の参考になるかと思う。

事務局 例えば、アンケートで、良いと思う事例を書いてもらえば、求めているものやその方向性がわかると思う。

委員 商工会議所でも、他地域への視察研修等で知っていることもあるだろうから、うまく連携できるとよい。

委員 前回調査の回答と、個票レベルで比較できるのか。全く同じ回答者による比較ができないのであれば、参考程度の比較になるため、そうした観点から、設問を削るという考え方もあるだろう。

委員 ウェブ回答について、もし途中保存ができないのであれば、どういった工夫ができるか考えた方がよいと思う。また、社内で決裁を取るうえでは紙の調査票の需要もある。

委員 市民アンケートで、Uターン者かを確認できる設問を設けてはどうか。

委員 ある程度の規模の事業所の場合、誰がアンケートに回答するかが決まらず回答してもらえないこともあると思う。「株式会社〇〇御中」だけでなく、例えば、「決定権のある方にご回答いただきたい」などと書くと回答しやすくなるかと思う。

事務局 宛名シールや依頼状の書き方を工夫したい。

4 報告事項 次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる青梅市の現状分析について

事務局 (内容説明)

委員 建設業の付加価値額が大きく伸びている。

委員 建設業は年によって、上下しやすい業界だと思う。

委員 青梅市の所得水準は低いと思っていたので、実際は高いというのは意外だった。

事務局 青梅市も含めて都内の自治体は全国的にみると比較的高い。ただ、都内他自治体と比べると青梅市の水準はそれほど高くない。

委員 雇用者所得、とあるので、自営業の人は含まれていないのではないか。企業の雇用者の比較になるのではないかと思う。

委員 最近、移住先として東京の西の方は注目されているようだ。

事務局 所得は、平均値ではなく、中央値で見ると見えてくるものもあると思う。

また、東京の西部が注目されているとすると、区部や、区部に近い市部在住の高所得者に来てもらうための政策も考えていく必要がある。

委員 所得が高い人や、業績が堅調な企業に、青梅市に来てもらえるとよい。青梅佐藤財団が、プログラミング等に強いIT系の子どもの育成のためのプログラムを実施している。また、市内に「夢の図書館」(※過去100年分2万冊の技術雑誌を所蔵する民営図書館)もあるので、そうした場所を資源として活用できればと思う。

稼ぐ力がある人に青梅市に住んでもらう、ということは、結果的に家族ごと住んでもらったり、起業したりすることもあるかもしれない。いま市にある強みを活かして、そうした地域にすることもあるかもしれない。

委員 夢の図書館は新しい場所に移動したが、所蔵品が多く、もう手狭

- になっているようだ。市の公共施設を活用できないか。
- 事務局 廃校になった校舎は、新耐震基準であれば、活用できるかと思う。
- 委員 例えば、夢の図書館のようなところに貸すこともできるのか。
- 事務局 可能だと思うし、そうした活用を想定して市が整備することもありうる。総合計画等においてはインキュベーション化について触れている。
- 委員 愛好家にとっては、目玉になるかもしれない。
- 委員 価値が高いパソコン等が、数多く寄贈されているようだ。
- 委員 AIを用いたデータの未来予測はできるのか。
- 事務局 AIは用いないが、例えば、2030年や2050年に市のGDPがどれくらいになるか推計することはできる。
- 委員 例えば5年後に、修正特化係数や純移輸出額がどうなるかはわかるか。
- 事務局 それは難しい。
- 委員 事務局には、他の地域の事例等も多く集めてもらい、青梅市において実施するとよい取組を挙げてもらい、審議会の委員で検討できるようにしてもらえるとよい。また、そういう方向に導けるアンケートをつくってもらえるとよい。

5 その他

- 事務局 本日の議論を踏まえて、アンケートの修正を行うため、次回の審議会は、当初予定を後ろ倒しして、11月下旬～年内としたい。改めて日程調整の連絡をする。

以上